

必須問題集Ⅱ(2017) 訂正及び法改正等による変更

薬理			
頁	問番号	訂正箇所	内容
60	6	選択肢4	スルファドキシシ・ピリメタミン → メフロキン
薬剤			
頁	問番号	訂正箇所	内容
124	17	問題	最終滅菌法でないのはどれか。 → 滅菌用フィルターにより微生物を除去するのはどれか。
		選択肢1	乾熱法 → 乾熱滅菌法
		選択肢2	高压蒸気法 → 湿熱滅菌法
		選択肢3	照射法 → 放射線滅菌法
125		解説	ろ過法は～がある。 →ろ過法は滅菌用フィルターを用い、 液体又は気体中の微生物を除去する方法である。熱、放射線に対して不安定な被滅菌物にも適用できる。
129	33	解説2	あばた状または欠ける現象。 →あばた状に 欠ける現象。
130	35	選択肢2	滅菌の適否は、通例、微生物限度試験法によって判定する。 → 無菌製剤の製造法では、滅菌後の微生物の死滅を定性的に測定又は推測する。
		選択肢5	ゴム栓の滅菌には乾熱法が用いられる。 → 脂肪油や固形の医薬品などで熱に安定なものが湿熱滅菌法に適している。
131	35	解説2	滅菌の適否は、～される。 → 定性的ではなく、定量的に測定または推測し、適切な滅菌指標体を用いるなどして、10^{-6}以下の無菌性保証水準を担保する条件において行う。
		解説3	最終滅菌法の記述であり、加熱法、照射法、ガス法がある。 → 最終滅菌法の記述である。

131	35	解説4	無菌操作法は、～である。 →無菌操作法は、 微生物の混入リスクを適切に管理する方法で、原料段階またはろ過滅菌後から、一連の無菌工程により製剤を製造する方法をいう。
		解説5	ゴム栓、～用いられる。 → 湿熱滅菌法ではなく、乾熱滅菌法に適している。
	39	解説1、2	プラスチック製水性注射容器 →プラスチック製水性注射 剤 容器
		解説3、5	ガラス製注射容器 →ガラス製注射 剤 容器
133	40	解説3	× 充てん済み → 充填 済み
	42	解説	容器に充てんした噴射剤とともに、 →容器に 充填 した噴射剤とともに、
135	45	解説4	(追加) エキス剤、流エキス剤、生薬試験法で規定されている。
	47	解説3	窒素測定法 → 窒素 定量 法

病態・薬物治療

頁	問番号	訂正箇所	内容
182	27	選択肢2	オランザピン → ヒドロクロロチアジド
208	28	選択肢4	ファドロゾール塩酸塩水和物 → アナストロゾール
		解説4	ファドロゾール → アナストロゾール

(2016.09.28)